

# 2022 Environment Report

ヨドコウ環境報告書

表紙の写真:ヨドコウ桜スタジアム

当社は大阪市に本社があり、社章や銅板製品のブランドマークに"桜"を用いております。セレッソ大阪のシンボルと同じ"桜"であるというご縁もあり、またセレッソ大阪への支援が当社にとりましても地元大阪の地域貢献活動につながると考え2021年3月よりパートナーシップ契約を締結しております。セレッソ大阪、そしてサポーターの皆様とともに、地域の活性化やスポーツ振興のために長期的なパートナーシップを築いてまいります。



持続可能な社会の実現に  
貢献する企業として

## 淀川製鋼

### ヨドコウ環境報告書2022

発行/令和4年9月 編集・発行/(株)淀川製鋼所 企画部 環境管理グループ  
〒541-0054 大阪市中央区南本町4丁目1番1号 ☎(06)6245-1119 FAX(06)6282-9176  
E-mail kankyokanri@yodoko.co.jp URL <https://www.yodoko.co.jp/>



# 自然環境と調和し共生を目指して

地球的規模での環境問題が深刻になっている現在、地球を守る企業活動が求められています。このような状況に応じて、1999年に企業活動の指針として「淀川製鋼所環境宣言」を作成し、以来全社を挙げて、地球の環境に配慮した企業活動に取り組んでいます。

## 淀川製鋼所環境宣言

当社は創業以来、鉄鋼メーカーとして各種製品を社会に供給し、人々の生活向上に貢献してまいりました。

一方、人々の豊かな生活への追求が、地球的規模での自然破壊や環境汚染につながり、現在では、地球環境汚染の解決が世界的な課題となっております。

こうした顕在する地球環境問題に企業活動が密接に関わっていることを深く認識し、人類共通の財産である地球を、健全な状態で次世代へ引き継ぐことは、我々企業人に課せられた責務であると考えます。

以上の状況にかんがみ、私たちは、自然と調和し、共生する企業活動を行っていくことを、ここに宣言いたします。

## 環境行動指針

### 1. 環境保全意識の啓蒙

社員及び協力会社社員に環境教育を実施し、環境保全を認識して行動する人づくりを推進します。

### 2. 事業活動における環境への配慮

- ① 全ての事業活動において、公害防止、省資源、省エネルギー、物流の合理化、廃棄物の削減・リサイクル等を行い、環境への負荷の低減に努めます。
- ② 製品開発に際しては、耐久性の向上に努め、再資源材料及びリサイクルし易い材料の採用など、廃棄による環境への負荷の低減に努めます。

### 3. 社内組織の整備

以上を推進するため、本社及び各事業所の環境管理組織を強化し、環境保全活動に取り組めます。

## 環境基本理念

地球環境の保全に  
貢献します。

自然環境調和型の  
企業活動を行います。

## 持続可能な開発目標 (SDGs)

150を超える加盟国首脳に参加のもと、2015年9月、国連本部において行動計画として17のゴール・169のターゲットからなる「持続可能な開発目標 (SDGs)」が掲げられました。当社グループは、これらの内容も踏まえ、事業を通じた価値創造により貢献してまいります。



# ENVIRONMENT REPORT 2022 [ヨドコウ環境報告書]

## CONTENTS

- トップコミットメント ..... 03
- TCFD提言に基づく情報開示 ..... 04
  - ガバナンス ..... 04
  - リスク管理/戦略 ..... 05
  - 指標と目標/ISO14001認証取得事業所 ..... 06
- 地球温暖化対策 ..... 07
  - 生産・オフィス部門での取り組み
  - 物流部門での取り組み
- 環境負荷物質の低減 ..... 08
  - 揮発性有機化合物 (VOC) の削減
  - PRTR法対象物質の排出量・移動量の低減
  - PCB含有機器への対応

- 循環型社会の形成 ..... 09
  - 廃棄物・有価物のリサイクルの促進
  - 排水の水質管理
- 環境教育 ..... 09
- 環境活動の目標と達成度 ..... 10
- マテリアルバランス ..... 11
- 環境会計 ..... 11
- 地域社会と共に ..... 12
  - 各事業所の取り組み
  - 太陽光発電
  - ヨドコウ迎賓館一般公開

- 商品を通じた社会貢献 ..... 13
  - クロメートフリー鋼板 エコグリーンシリーズ
  - グランウォール・ヨドファイナパネル・ヨドファイナルーフ
  - ヨドクリスタルグレーチング
  - ヨドコウダストビット
- ヨドコウグループ概要 ..... 14
  - 会社情報
  - 財務情報[連結]

### 報告対象組織

株式会社淀川製鋼所を対象としています。  
(一部連結対象会社情報を含みます。)

### 参考にしたガイドライン

環境省「環境報告ガイドライン(2018年度版)」  
(環境省ホームページ)  
<http://www.env.go.jp/policy/2018.html>

### 対象期間

2021年度(2021年4月1日~2022年3月31日)

100年企業への発展を見据えて、  
持続可能な社会の実現に  
貢献していきます。

代表取締役社長  
二田 哲



持続可能な社会の実現に貢献する  
企業を目指して

1997年の京都議定書の締結により国際的な温暖化問題への取り組みは大きな一歩を踏み出し、2015年には世界各国で温室効果ガスの排出削減を求めるパリ協定が締結されました。

日本国内では、2020年10月に政府が『2050年カーボンニュートラルを目指し、2030年度に温室効果ガスを2013年度から46%削減することを目指す。さらに50%の高みに向け挑戦を続ける』ことを表明しました。

当社は東証の新市場区分においてプライム市場を選択いたしました。プライム上場企業には脱炭素への積極的な取り組みが期待されており、当社としても気候変動対応は経営の重要課題の一つと捉えています。2021年9月にサステナビリティ推進室を設置し、TCFD:気候変動関連財務情報開示タスクフォース (Task Force on Climate-related Financial Disclosures) に基づき、ガバナンス、リスク管理、戦略、指標と目標の開示に向けてワーキンググループで取り組みを開始しました。2022年6月には「TCFD提言に基づく情報開示」とともに、TCFD提言へ賛同を表明しております。

当社としては、2050年カーボンニュートラルの実現を目指し、2030年度CO<sub>2</sub>排出量2013年度比30%削減をターゲットとして取り組みます。より一層の省エネルギーの推進、太陽光発電をはじめとした創エネルギーへの取り組み、再生可能エネルギーの導入を進め、持続可能な社会の実現に貢献する企業を目指してまいります。

事業活動における環境課題対応

当社は、1935年の創立以来、各種鋼板、ロール、金属屋根・壁の建材商品、物置をはじめとしたエクステリア商品、グレーチングといった様々な製品を送り出してまいり

ました。

1999年に『環境宣言』及び『環境行動指針』を定め、社内組織として『ヨドコウ環境マネジメントシステム』を構築し、国内全ての鋼板工場及び、海外関係会社の台湾SYSCO社、タイPPT社、中国YSS社でISO14001を取得しています。

省エネとVOC排出抑制を目的としたカラーラインへのRTO (蓄熱式脱臭装置) をはじめとした高効率設備の導入、工場・オフィス照明のLED化、営業車のハイブリッド車への切り替え、モーダルシフト化による物流の合理化、太陽光発電事業等、省エネルギーとCO<sub>2</sub>排出量削減を推進し地球温暖化対策に取り組んでおります。

その他、クロメートフリー鋼板開発などの環境負荷物質の低減、廃棄物発生量の低減や再資源化にも積極的に取り組んでいます。社員一人ひとりの環境保全意識のレベルアップを図るため、地域活動等への従業員の積極的参加、社内教育等を実施しており、全員参加での環境負荷低減に取り組んでまいります。

また、2022年5月に発売した「ヨド Hyper GLカラーEXEエグゼ」は「長期使用は人と環境に優しい」をコンセプトに穴あき25年保証の耐久性を備え、高い遮熱性を持ち合わせています。「ヨド耐火パネル グランウォールHyper」、「ヨド断熱パネル ファインパネルHyper」は高い遮熱性と断熱性を有しています。当社は空調負荷の低減が期待できる建材商品の開発にも注力しており、事業活動を通じて地球温暖化の解決へ貢献してまいります。

100年企業への発展を見据えて

低炭素社会の実現は、未来へ向けた挑戦です。持続可能な社会に貢献する100年企業を目指して、今後も様々な環境問題に目を向け、持てる技術力を発揮することによりお客様から信頼され、自然と調和し、共生する企業活動に取り組んでまいります。

TCFD提言に基づく情報開示

当社では、気候変動問題への取り組みを重要な経営課題と認識しており、グループ全体で省エネルギー、CO<sub>2</sub>排出量の削減を推進してきました。今後は、TCFD提言に基づいて気候変動に関連する事業リスクや機会についての情報開示を進めていきます。

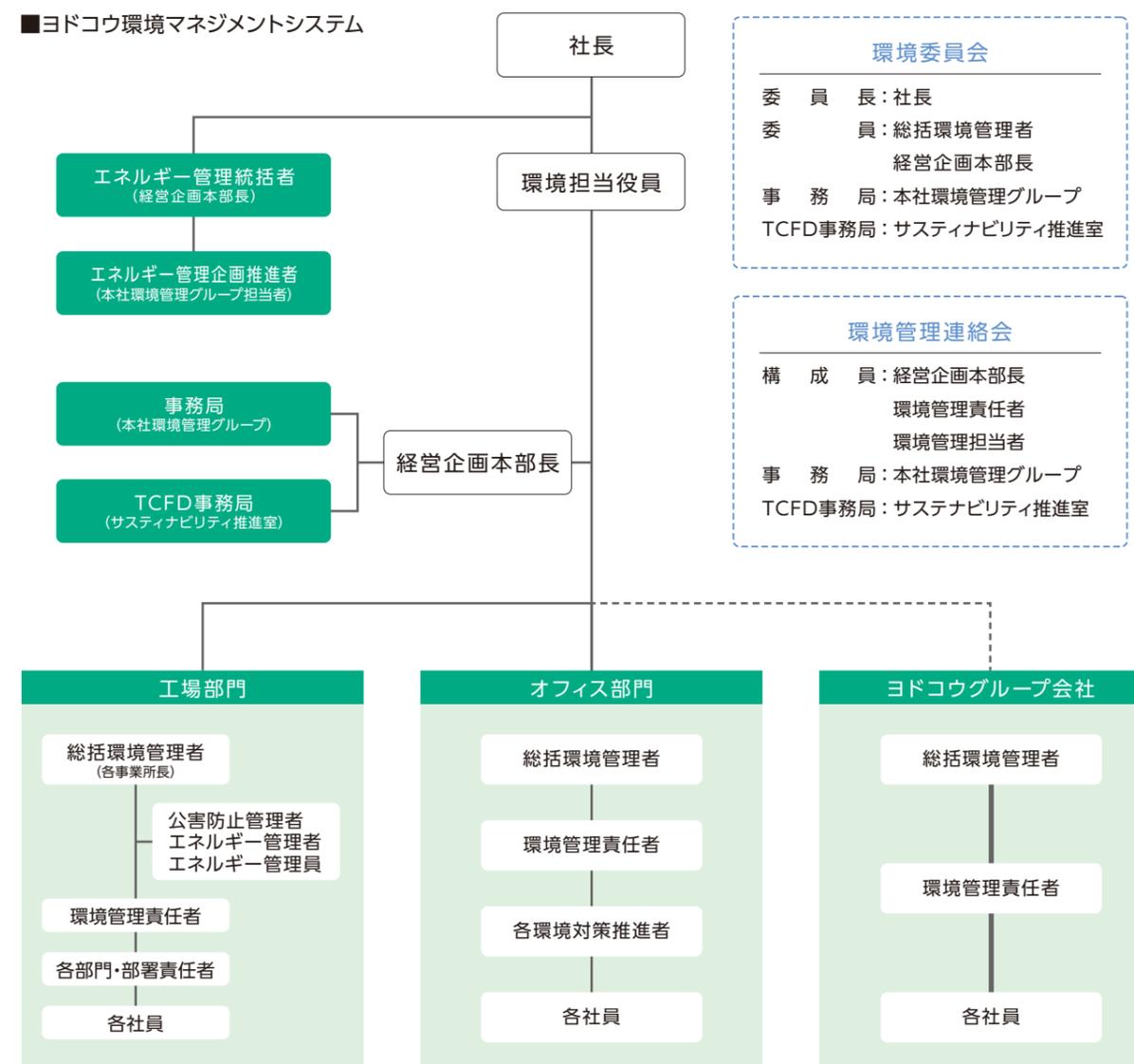


ガバナンス

当社は、環境保全に対する規制や要請に対応しつつ、より積極的に取り組むために「ヨドコウ環境マネジメントシステム」を構築しています。この度、「サステナビリティ推進室」を新設し、TCFD事務局として気候変動関連の検討・管理を推進していきます。

社長を委員長とし、環境担当役員、各部門の総括環境管理者からなる「環境委員会」で、気候変動に関わる基本方針や重要事項を審議します。また、「環境委員会」は取締役会へ報告を行い、全社で統合した取り組みを推進します。

■ヨドコウ環境マネジメントシステム



環境への取り組み

リスク管理

気候変動リスクに関するワーキンググループを設置してシナリオ分析を実施しました。気候関連リスク・機会を発生可能性と影響度の観点から優先順位付けを行い、重要度の高い事項に注力して取り組みます。今後は、「サステナビリティ推進室」を中心に継続的に確認していきます。

気候関連リスクの管理プロセスとして、サステナビ

リティ推進室を中心に「環境委員会」にて、気候関連リスクに関する分析、対策の立案と推進、進捗管理等を実践していきます。

「環境委員会」で分析・検討した内容は、取締役会に報告し、全社で統合したリスク管理を行います。

戦略

中長期的なリスクの一つとして「気候変動」を捉え、関連リスク及び機会を踏まえた戦略と組織のレジリエンスについて検討するため、当社はIEA(国際エネルギー機関)やIPCC(気候変動に関する政府間パネル)による気候変動

シナリオ(2℃未満シナリオおよび4℃シナリオ)を参照し、2030年及び2050年までの長期的な当社への影響を考察し、国内鋼板関連事業を中心にシナリオ分析を実施しました。

※2℃未満シナリオ:気温上昇を最低限に抑えるための規制の強化や市場の変化などの対策が取られるシナリオ  
4℃シナリオ:気温上昇の結果、異常気象などの物理的影響が生じるシナリオ

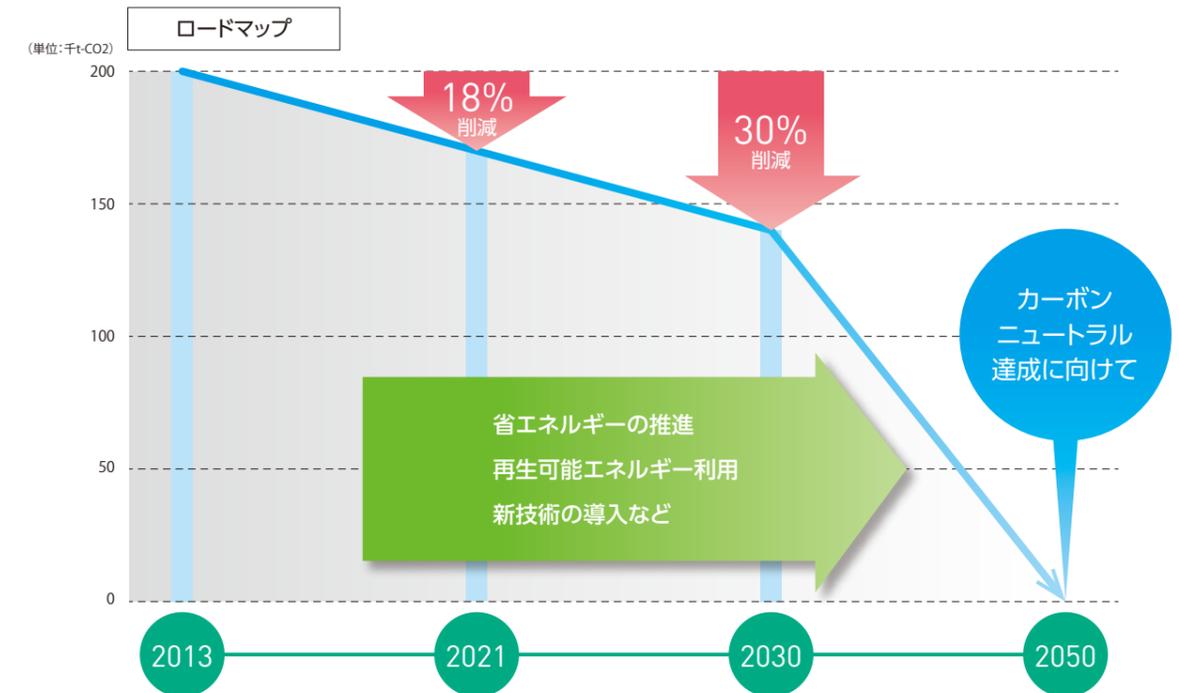
リスク大 ★★★ > リスク小 ★  
機会大 ★★★★ > 機会小 ★

シナリオ	要因	変化	リスク/機会	重要度	当社への影響	当社の対応策
2℃未満	カーボンプライシングの導入	原材料等の調達コストの増加	リスク	★★★★	●カーボンプライシング(炭素税、排出量取引)導入による原材料への価格転嫁の影響で調達コストが増加する。 ●物流事業者のEV・FCVへの設備投資や再生可能エネルギー・グリーン燃料の調達により、物流コストが増加する。	◇生産効率アップの取り組み推進 ◇製品価格転嫁について交渉 ◇モーダルシフトの推進 ◇物流拠点・配送方法の協議・検討
		操業エネルギーコストの増加	リスク	★★	●カーボンプライシング(炭素税、排出量取引)導入により、操業エネルギー(電力・ガス)価格が増加する。	◇省エネルギーの推進 ◇自家消費太陽光発電設備導入 ◇生産効率アップの取り組み推進
	環境規制の強化	CO <sub>2</sub> 排出削減に向けた規制への対応	リスク	★	●社会的要請により、環境規制が一層強化される。それに伴い、CO <sub>2</sub> 排出削減への取り組みが加速し、エネルギー関連投資が増加する。	◇省エネルギーの推進 ◇CO <sub>2</sub> 削減に寄与する新技術の検討・導入
4℃	顧客嗜好の変化	社会における環境意識、脱炭素意識の高まり	機会	★★★★	●環境及び脱炭素意識の高まりによりZEH、ZEBへの移行が推進する。それに伴い、省エネルギーの寄与が期待できる当社の断熱・環境対応製品需要が拡大する。	◇断熱・環境対応製品(屋根・壁・パネル材等)の提供拡大とメニューの充実 ◇断熱・環境対応製品の開発推進
		サプライヤー、及び当社事業所が被災することによる操業停止リスクの上昇	リスク	★★	●サプライヤー、及び当社事業所が自然災害(台風、洪水など)に見舞われ、操業停止の可能性が高まる。	◇原材料安定調達のためのレジリエンスの高い調達網の構築 ◇適正在庫の継続的確保 ◇事業所間の代替生産体制整備 ◇事業所災害対策(洪水他)の更なる推進
4℃	自然災害の激化	激化する自然災害に備える災害対応ソリューションや製品需要の増加	機会	★★	●自然災害の激化(台風大型化等)が懸念され、災害に備える動きが活発化する。それに伴い、当社の屋根・壁高強度製品や水密性能の高い製品・施工の需要が拡大する。	◇製品メニューの充実と提供拡大 ◇高強度製品の開発推進

指標と目標

1999年に企業活動の指針として「淀川製鋼所環境宣言」を作成し、以来全社を挙げて、地球の環境に配慮した企業活動に取り組んでいます。気候変動問題については、省エネルギーの推進や再生可能エネルギー利用、新

技術の導入などによるCO<sub>2</sub>排出量の削減が重要課題と考えます。当社は、「2050年カーボンニュートラル達成」に向けて、「2030年CO<sub>2</sub>排出量 2013年度比30%削減」をターゲットとして取り組みます。



ISO14001認証取得事業所

生産部門の鋼板3工場では、環境負荷低減のための環境保全活動を継続的にやり、その活動を管理し、向上させるためにISO14001の認証を取得しています。また、海外グルー

プ会社3工場においてもISO14001の認証を取得しています。

事業所	登録年月	登録範囲	登録番号	認証機関
市川工場	2000年 6月	冷間圧延、表面処理の鋼板及び鋼帯の製造に係わる事業活動	E143	JICQA
大阪工場	2000年12月	表面処理鋼板、鋼製建材商品、鋳鉄ロールの製造に係わる事業活動	E193	
呉工場	2000年12月	冷間圧延鋼帯及び表面処理鋼帯の製造に係わる事業活動	E203	

## 地球温暖化対策

### 生産・オフィス部門での取り組み

当社は地球温暖化対策として、日本鉄鋼連盟のカーボンニュートラル行動計画に従いエネルギー使用の合理化や、設備・装置の高効率化など継続的なCO<sub>2</sub>排出量削減への取り組みを行っています。

生産部門では、生産設備の高効率化や運用改善、設備照明のLED化などの対策を継続して実施しております。オフィス部門(本社・支社・営業所)では、クールビズの実施や室内温度を夏期では28℃、冬期も20℃程度になるように空調管理の徹底などの活動を行っています。活動の結果は、情報の共有などを行い、社員の意識の向上と定着に努めています。

2021年度のヨドコウ国内グループのCO<sub>2</sub>排出量合計は164千tとなりました。基準年度である2013年度に対し約18%削減となりました。

■CO<sub>2</sub>排出量の推移(国内グループ)



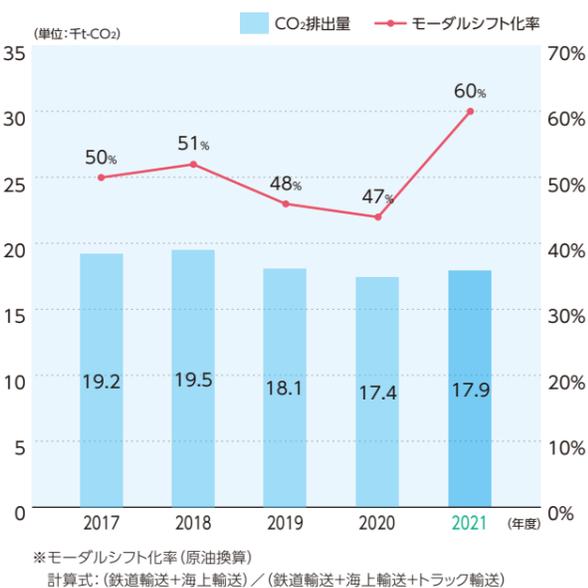
### 物流部門での取り組み

当社の物流は、輸送貨物・輸送先に合わせて、トラック・トレーラーによる陸上輸送、コンテナによる鉄道輸送、内航船・フェリーによる海上輸送を組合せています。

CO<sub>2</sub>排出量削減対策としてトラック・トレーラーでは、積載率の向上などの対策を行っております。また鉄道輸送、海上輸送への変更等、継続的なモーダルシフトを進めています。

2021年度の、モーダルシフト化率\*は、海上輸送の増加により、前年度比13ポイント増加となりました。しかしながらCO<sub>2</sub>排出量は、輸送重量増加により、前年度に対して2.9%増加となりました。

■物流部門 CO<sub>2</sub>排出量、モーダルシフト化率推移



## 環境負荷物質の低減

### 揮発性有機化合物 (VOC\*) の削減

揮発性有機化合物 (VOC) についても排出濃度を定期的に測定し、法及び条例の規制値以下であることを確認しています。

当社では、日本鉄鋼連盟の自主行動計画に参画しており、その行動目標である「2010年度の排出状況から悪化させない」ことを自社の目標とし、VOC排出量削減に取り組んでおります。

2021年度の排出量は、2010年度比では約33%の削減となりました。今後も使用量削減対策、カラーライン脱臭装置の安定した運転の確立等の対策を進めてまいります。

※VOC:揮発性有機化合物(Volatile Organic Compoundsの略)塗料、印刷インキ、接着剤、洗浄剤、ガソリン、シンナーなどに含まれるトルエン、キシレン、酢酸エチルなどが代表的な物質

■VOC排出量推移と削減率



### PRTR法対象物質の排出量、移動量の低減

当社では、PRTR法\*1及び条例に基づき、化学物質の適正な保管や管理を行い、その排出量\*2及び移動量\*3を低減させる活動に取り組んでおり、その結果を各事業所が所属する自治体に報告しています。

2021年度は、届出対象物質が19物質、排出量は約27トンで、ほぼ大気への排出でした。また、移動量は約95トンで、ほぼ廃棄物として排出されたものです。物質の内訳は、排出量、移動量共にキシレン、エチルベンゼン等の有機溶剤が大半を占めております。

前年度比では、排出量が約12%増加、移動量は約4%減少となりました。

※1 PRTR法: (Pollutant Release and Transfer Registerの略)「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律」日本では1999年に法制化

※2 排出量:事業所から排出された量

※3 移動量:事業活動に伴って排出される産業廃棄物を処理業者に委託して場外へ移動する量、及び下水に排出する量

2021年度 PRTR法に基づく届出排出量及び移動量 (単位:トン)

政令番号	物質名	排出量					移動量	
		大気	公共用水	土壌	自所内埋立	下水道	事業所外	
1	亜鉛の水溶性化合物	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
53	エチルベンゼン	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	33.4	
80	キシレン	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	31.4	
83	クメン	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	
87	クロム及び三価クロム化合物	0.0	0.0	0.0	0.0	0.04	0.5	
88	六価クロム化合物	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	
132	コバルト及びその化合物	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
277	トリエチルアミン	2.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
296	1,2,4-トリメチルベンゼン	5.1	0.0	0.0	0.0	0.0	10.5	
297	1,3,5-トリメチルベンゼン	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0	1.6	
300	トルエン	2.4	0.0	0.0	0.0	0.0	11.0	
302	ナフタレン	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	1.6	
305	鉛化合物	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.8	
309	ニッケル化合物	0.0	0.0	0.0	0.0	0.03	0.6	
321	バナジウム化合物	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
411	ホルムアルデヒド	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	
412	マンガン及びその化合物	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
448	マンガン(4+)-フェニルジアミン	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	
453	モリブデン及びその化合物	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
総計		26.79	0.0	0.0	0.0	0.07	94.9	

### PCB含有機器への対応

PCB含有が疑われる使用済みトランス、コンデンサーや安定器等の電気機器について調査を行い、含有が確定したのものに関しては、法令に基づき、自治体への届出と適切な保管及び処分を行っています。

2021年度は、各事業所で処分を実施し、約5tのPCB含有機器について処分を実施しました。

環境への取り組み

## 循環型社会の形成

### 廃棄物・有価物のリサイクル促進

生産活動において発生する廃棄物及び有価物には、鉄くず、廃酸、汚泥、廃油、鉱さいなどがあります。

当社では、それらの減量化、再資源化に取り組んでおり、再資源化可能な処分業者の選定などの取り組みを推進し、汚泥はセメント原料や含有金属の抽出などに、廃油は再生油や補助燃料に、鉱さいは路盤材などにそれぞれ利用されています。

また、処分業者を定期的に訪問し、処分の現地確認を行う等、確実な廃棄物処分を実施しています。

2021年度の廃棄物・有価物の総発生量は84千トンとなり、対前年度比約8%の増加となりました。再資源化量は53千トンとなり、再資源化率は63%と対前年度比約1ポイントの上昇となりました。

■ 廃棄物・有価物発生量と再資源化率推移(単体)



### 排水の水質管理

各工場の廃液処理設備では、生産設備から発生した廃液を中和、凝集沈殿処理し、その後濾過等で法規制基準未満に浄化し、公共用水域や下水道に排出しています。

排水の水質管理は、法や条例に従い定期的なサンプリングや自動測定装置により濃度測定を行い、濃度や総量値を各自治体へ報告しています。また自主的な濃度測定や、各所にpH計や油分検知器を設置し、有害物質等の流出による環境事故を発生させないよう、継続的に監視しています。



市川工場 総合廃液処理設備

## 環境教育

当社は、環境経営を継続的に行うため、環境保全の実務に取り組む人材を育成するとともに、社員の環境意識の向上を図っています。社会をとりまく環境問題を説明し、企業活動を行う上での環境マネジメントシステムの必要性や環境方針・取り組み等、環境への理解を深める活動を行っています。

市川工場では、環境教育の一環として、2021年度は緊急事態訓練「海への油流出を想定した訓練」を実施しました。



市川工場 海への油流出を想定した訓練

## 環境活動の目標と達成度

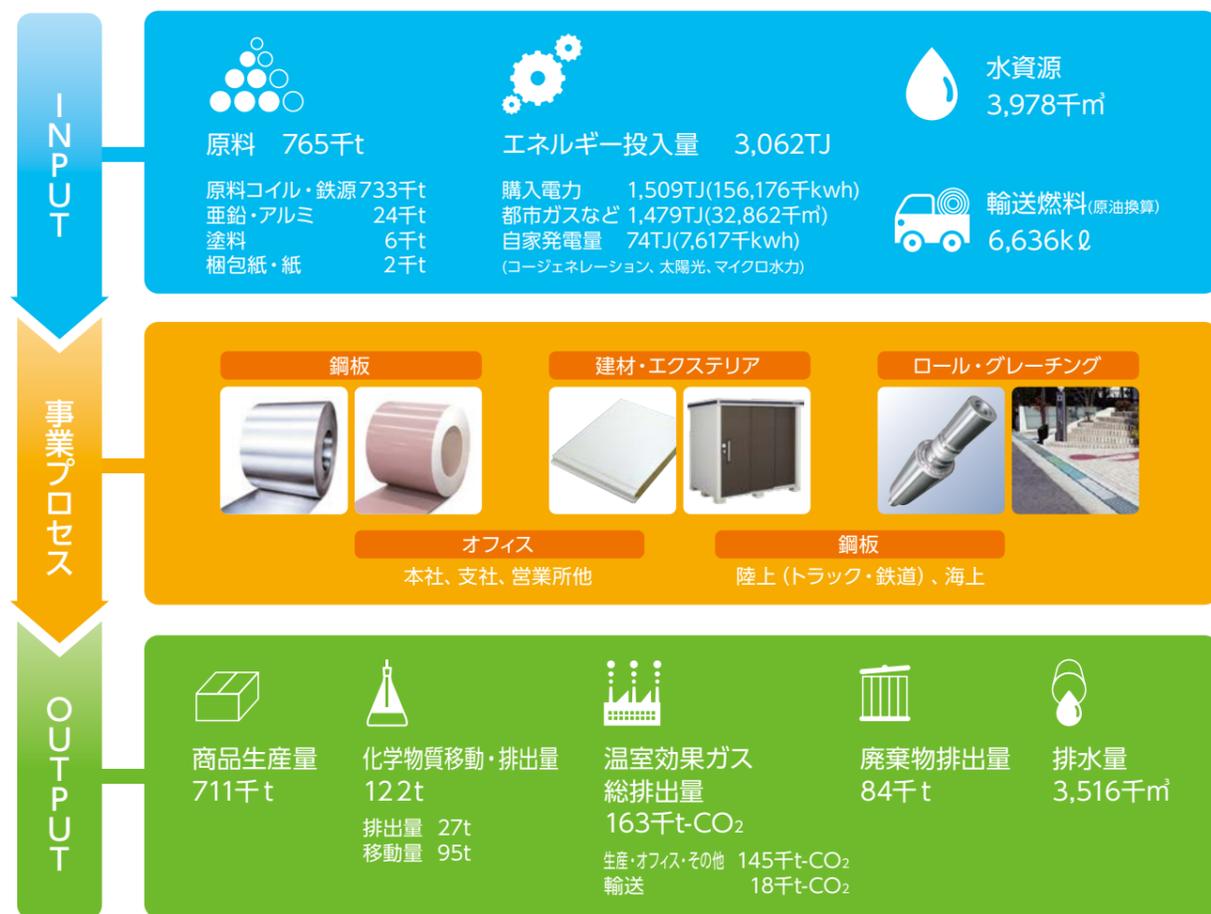
評価：◎達成、○70%以上の達成、△未達成

取り組み内容	該当する主なSDGs	重点目標	2021年度実績	達成度	ページ
地球温暖化防止					
生産・オフィス部門でのCO <sub>2</sub> 削減	7, 9, 13	地球温暖化防止対策に取り組み、2030年度CO <sub>2</sub> 排出量を2013年度比30%削減を目指す。(日本鉄鋼連盟のカーボンニュートラル行動計画に参画)	2013年度比約18%削減 前年度比では約10千t-CO <sub>2</sub> の増加	△	7
輸送でのCO <sub>2</sub> 削減	7, 13	モーダルシフトの推進によるCO <sub>2</sub> 排出量の削減を目指す	・CO <sub>2</sub> 排出量は輸送重量の増加により前年度比2.9%増加 ・モーダルシフト化率は、海上輸送量増加により前年度比13ポイントアップ	○	7
環境負荷物質の低減					
VOC排出量の削減	11, 12	基準年度(2010年度)のVOC排出量から悪化させない	・各工場のカラーライン蓄熱式脱臭装置の適正運転を実施 ・基準年度に対しては33%削減	◎	8
有害化学物質の低減及び全廃	11, 12, 14	原材料の切り替え等による有害化学物質の排出量、移動量低減及び有害化学物質管理の徹底を図る	P R T R 対象物質の排出量は前年度比7.9%削減、移動量は前年度比3.8%減少	○	8
		PCB含有機器の適正な保管と処分を行う	PCB含有機器の適正な保管と速やかな処分を実施。	◎	8
商品を通じた社会貢献	3, 11, 12	環境配慮商品の開発と拡販により社会に貢献する	クロメートフリー等、環境にやさしい製品を継続して開発	◎	13
循環型社会の形成					
省資源の推進	12	分別徹底や処分先の見直しによる再資源化率アップ及び資材等の有効活用などにより廃棄物の削減を図る	・廃棄物排出量は前年度比6千t増加 ・再資源化率は前年度比1ポイントアップ	○	9
環境配慮					
地域社会への貢献	11	コミュニケーションの向上等により地域へ貢献する	地域の清掃活動実施(各事業所で実施)	◎	12
環境活動の推進とリスク管理の徹底	6, 12	環境関連資格者の養成や有害物質漏洩予防対策の強化などによりリスク管理の徹底を図る	・環境関連資格者の養成を実施 ・各工場にて緊急事態を想定した訓練等を実施	◎	6・9

## マテリアルバランス

当社は、鋼板・建材・エクステリア・ロール・グレーチングの各事業を中心に展開しており、それぞれの製造過程では、化学物質排出量の削減、廃棄物の削減とリサイクル利用を進めると共に太陽光発電、マイクロ水力発電など再

生可能エネルギー設備の導入、コージェネレーションシステムの導入など、省エネルギーやCO<sub>2</sub>排出量の削減に継続的に取り組んでいます。



## 環境会計

事業活動を行う上で、環境を損なうことがないよう環境負荷発生の防止や抑制等、環境保全の取り組みを効率的に行うための指標として、環境保全コストを把握しています。

2021年度の環境保全コストは、照明のLED化等の設備投資に、23百万円を支出しました。

また保全費用は、623百万円となり、そのうち産業廃棄物処理に35.2%、水質汚染防止に25.6%、大気汚染防止対策に15.5%等、主に産業廃棄物処理や公害防止のための支出となりました。



## 地域社会と共に

### 各事業所の取り組み

#### 大阪工場



年2回の近隣歩道清掃を実施しました。(2021年5月、12月)

#### 呉工場



呉工場周辺の街路や海沿いの公園など、春と秋の2回清掃を行いました。(2021年5月、12月)

#### 市川工場



市川港開発協議会主催の清掃活動に年2回参加し、市川工場周辺の道路や堤防などの掃除を実施しています。  
※2021年度はコロナ感染拡大の影響により実施していません。写真は2020年11月に撮影したものを掲載しています。

#### 本社



大阪市主催の「大阪市一斉清掃「クリーンUP」作戦」に参加し、美しいまちづくりのため、本社ビル周辺の清掃活動を実施しました。(2022年2月)

### 太陽光発電

当社の大阪工場・泉大津工場・姫路事業所等、及び国内関係会社の屋根上や地上に、太陽光発電システムを設置しており、太陽光発電によりCO<sub>2</sub>削減効果が見込まれます。

年間約6,243MWhの電力を発電  
年間約3,465tのCO<sub>2</sub>削減効果



泉大津工場

### ヨドコウ迎賓館の一般公開

社会貢献活動の一環として国指定重要文化財であるフランク・ロイド・ライト設計によるヨドコウ迎賓館の保存及び一般公開を行っています。詳しい情報はヨドコウホームページをご覧ください。



## 商品を通じた社会貢献

### クロメートフリー鋼板 エコグリーンシリーズ

亜鉛めっき鋼板・ガルバリウム鋼板・カラー鋼板で、六価クロムを含まず耐久性を備えたクロメートフリー鋼板「エコグリーン」シリーズを開発してきました。外装用カラー鋼板では、業界初のクロメートフリー化を実現しております。お客様の環境負荷物質削減のニーズにいち早く対応した商品を通して、地球の環境保全に貢献してまいります。



### ヨド耐火パネル グランウォールHyper ヨド断熱パネル ファインパネルHyper

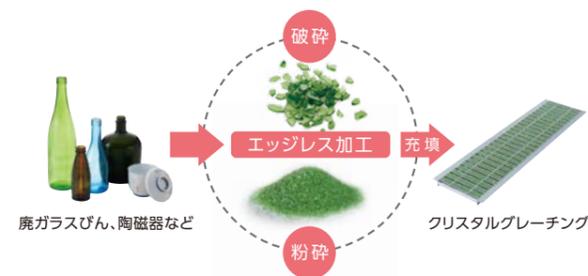
事務所、倉庫、工場などの壁材、屋根材に適した内外装一体のパネルで、断熱材を表裏2枚の鋼板でサンドイッチにした断熱効果の高い商品です。オフィスビルやショッピングセンターの外壁などへ採用されています。



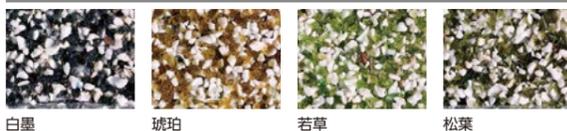
コベルコ神戸スティーラーズ 灘浜クラブハウス

### ヨドクリスタルグレーチング

粉碎した廃ガラスびんと廃陶磁器等との混色により、景観を損なわない落ち着いた色相も表現できる環境にやさしく、デザイン性の高いグレーチングです。



色相の例



### ヨドコウダストピット

集合住宅用から事業所用まで様々なサイズを取り揃えたゴミ収集庫です。ゴミの分別収集や、鳥や動物および突風等によるゴミの散乱の防止に役立っています。



## ヨドコウグループ概要 (2022年3月31日現在)

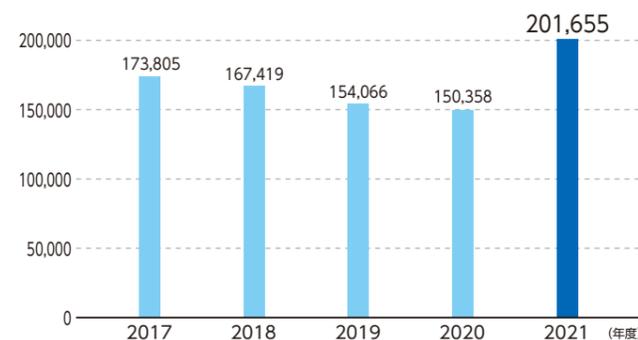
### 会社情報

会社名	株式会社 淀川製鋼所 (Yodogawa Steel Works, Ltd.)
設立	1935年1月30日
資本金	232.2億円
売上高	[連結] 2,016億円 [単体] 1,275億円
従業員数	[連結] 2,392人 [単体] 1,206人
国内拠点	本社、支社、工場(大阪・呉・市川・泉大津) 姫路事業所、営業所15カ所
国内連結子会社(5社)	高田鋼材工業株式会社 淀鋼商事株式会社 京葉鐵鋼埠頭株式会社 ヨドコウ興発株式会社 福井ヨドコウ株式会社
海外連結子会社(3社)	盛餘股份有限公司 (SYSCO社) 淀川盛餘(合肥)高科技鋼板有限公司 (YSS社) PCM PROCESSING (THAILAND) LTD. (PPT社)



### 財務情報 [連結]

売上高 (単位:百万円)



セグメント別売上高構成比 (単位:%)

